

平成 3 0 年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

|                           |   |                      |  |
|---------------------------|---|----------------------|--|
| <p>中長期目標<br/>(学校ビジョン)</p> | <p>○社会の中で自立して生活ができる力の育成<br/>○職業生活に必要な意欲と能力の育成<br/>○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成</p> | <p>今年度の<br/>重点目標</p> | <p>1 社会人としての基礎的な力の育成<br/>2 職業生活に必要な力の育成<br/>3 地域で生きる力の育成<br/>4 教職員の専門性・授業力の向上<br/>5 組織力の向上</p> |
|---------------------------|---|----------------------|--|

| 評価項目              | 評価の具体項目                                   | 年 度 当 初  |   | 評 価 結 果 (10)月   |   |  |
|-------------------|---|--|---|---|---|--|
|                   |   | 現 状  | 目標(年度末の目指す姿)  | 経過・達成状況   | 改善方針  |  |
| 1 社会人としての基礎的な力の育成 | よりよい生活習慣の徹底(○学年部、指導部、保健部)                 | ○昨年度、目標に挙げ取り組んだが、年度末アンケートで1日を通じて元気よく挨拶ができたという回答した生徒が44%であった。   | ○8割の生徒が気持ちの良い挨拶(場にあった挨拶)をすることができる。  | ○ビジネスマナー講座、進路指導部の講話の実施により意識付けを図る。<br>○生徒会、教職員による挨拶運動を実施する。  | ○講座・講話を実施した。<br>○生徒会や学年部ごとの挨拶運動を実施した。<br>○生徒の学校生活アンケートでは、挨拶の実施の達成度6割程度であった。<br>挨拶の大切さは感じているがまだ、自分から挨拶する姿まで至っていない。                                     | ○生徒会の挨拶の取り組みを通じ挨拶運動の輪を広げる。<br>○朝の立ち番や廊下でのすれ違い等で教師側も良きモデルとして今後も挨拶運動に取り組む。   |
|                   | 人との良い関係性や社会性を育む指導(○学年部、支援部)               | ○人との関係性がうまく結べない生徒がいる。<br>○自尊心が低く自分に自信がなかったり、困ったことを相談することができない生徒がいる。  | ○8割の生徒が、学校生活が充実している・仲間との人間関係が楽しいと感じている。   | ○教育相談の場を設定する。<br>○スクールカウンセラーと連携して支援を行う。<br>○生徒情報データベース等で生徒の情報や支援について共通理解を図る。<br>○人間関係づくりを意識した活動を行う。             | ○学校生活に対する満足度に関するアンケートでは、1年生65%、2年生85%、3年生78%であった。<br>○心の不安定な生徒に対しては、カウンセリングにつなぐことができた。<br>○生徒指導面等、早期発見・早期対応・共通理解を図ることができている。<br>○学校行事を通じて学級集団づくりができた。 | ○特別活動等で人間関係づくりを意識した取り組みを実施していく。<br>○情報モラルに関するトラブルが多いので、保護者研修会や懇談を通じ、保護者とモラルの共有ができるようにしていく。                                 |
|                   | 自治活動(生徒会活動、寄宿舎自治活動、チャーター制度等)の推進(○指導部、寮務部) | ○生徒会活動や学校行事において司会や進行等、年間を通じて生徒が活躍する場面が増えつつある。<br>○寄宿舎では、舎生が自治活動の手順について理解し、生活をよりよくするための話し合いも活発になってきている。         | ○生徒会活動で、生徒が主体的に活動や行事の企画運営に関わることができる。<br>○自治会行事の運営を指導員と連携しながら生徒主体で行う。            | ○見通しを持って活動できるように事前の話し合いや準備の時間を確保し計画的に行う。<br>○活動の目的や課題を確認し合う機会を設定する。<br>○自治会役員、部長等が行事や運営の計画、実践を繰り返す。             | ○行事の企画・進行だけでなく、学校生活での気づきに対する啓発活動にも取り組むことができた。<br>○話し合いの時間を十分に確保することは難しかった。<br>○自治会役員や行事の実行委員が中心となって企画や運営、舎生への呼びかけ等ができてきた。                             | ○取り組みへの評価を適切に行い意欲につなげる。<br>○定期的な執行部会を月2回設定する。<br>○後期になり新しく自治会役員が代わったので、これまでできていたことを継承しつつ、より活発になるように支援していく。                 |
| 2 職業生活に必要な力の育成    | 働く心構え、働く意欲の指導(○進路部、学科部、学年部)               | ○現場実習で働く意欲が乏しいと評価される生徒が見られた。<br>○働く心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がある。<br>○企業調査により専門的な技能を求める企業は少なく「働く意欲」等を求めている。          | ○生徒一人一人が、学年別の目標を理解し、実習への意欲が向上している。  | ○心の道場、連続ミニセミナー、成果発表会等を計画的に実施するとともに、振り返り等で意欲を引き出す。<br>○進路に関する学習の導入段階や学年集会等で卒業生を紹介する。                             | ○心の道場を計画通り実施し、2年生の実習評価で挨拶の評価が上がった。<br>○連続ミニセミナー、成果発表会等は実施に向け計画中。<br>○卒業生の状況を実習事前指導時に話したり、進路ミニ研修や通信「卒業生に学ぶ」で紹介したりした。                                   | ○成果も見られ、連続ミニセミナー、成果発表会等計画中のものを実施する。<br>○卒業生の状況について継続して伝えていく。   |
|                   | 専門教科共通目標の徹底(○学科部)                         | ○専門共通目標があることは認識しているが、その項目について具体的に理解している生徒はまだ多くない。  | ○生徒一人一人が、学年別の共通目標を具体的に理解し、実践できている。  | ○各専門教科での始業時や終了時の復唱や振り返り等で繰り返して強調し、指導する。<br>○コース学習終了時に共通振り返りシートを活用する。  | ○専門教科共通目標を理解している生徒は増えていくがまだ不十分である。<br>○学習終了時の共通振り返りシートを活用して生徒自身が個々の未達成部分を理解し達成するための個々の目標を立てる目安にしている。  | ○復唱や振り返りでの強調・指導を継続する。<br>○コース学習終了時の共通振り返りシート記入時にも強調・指導する。  |
|                   | 専門的な職業スキルの指導(○学科部、進路部)                    | ○選択したコースと異なる業種を進路先として選ぶことは少なくない。<br>○校外検定受検や校内検定作成が遅れているコースもある。  | ○コース間の連携によって就職までに、必要とするスキルを学ぶ機会を作れている。<br>○全コースが検定を作成し、実施している。                  | ○コース間の派遣制度の確立を図る。(ルールの作成)<br>○検定未実施のコースに働きかけ、校内検定を作成する。   | ○早い段階で関係分掌と協議し、派遣制度のルールを作成した。<br>○技能についての検定実施困難のコースは知識についての検定を実施した。(農)  | ○コース派遣を必要とする時期に、適宜関係分掌で協議し速やかに実施する。<br>○検定の実施が定着するように、時期や設問数などをマニュアル化する(農)   |
| 3 地域で生きる力の育成      | 地域連携事業の推進(○学科部、進路部)                       | ○積極的に近隣の施設等に出向いて、地域密着型の職業教育を実践している。しかし、年度によって活動の有無があるなど不安定なコースもある。また、施設担当者から評価していただくことはなく、指導していただくだけの機会となっている。 | ○毎年、地域密着型の活動を計画、実施する。<br>○外部の方から評価をいただくことで、地域や社会に求められる人材育成につなげる。                | ○地域密着型職業教育として、施設や事業所での活動を年間計画の中に位置づける。<br>○校外での学習の際は、専門共通目標について施設担当者に評価していただき生徒に還元する。                           | ○定着している施設や事業所での活動はできている。次年度年間計画に位置づけるよう意識している。<br>○施設担当者用の評価表(専門共通目標)を作成することとした。  | ○年間計画作成の際に組み込むようにする。<br>○次年度までに専門共通目標についての評価表を作成し、施設担当者に評価を依頼する。   |
|                   | 生涯体育、文化・芸術活動の推進(○指導部)                     | ○部活動において、計画的に活動し各種大会や地域のイベントへの参加も増えてきた。  | ○各種大会や地域のイベントに積極的に参加している。   | ○各種大会や地域イベントの情報を早めに生徒に伝えとともに、練習を計画的に行う。   | ○各部が各種大会や地域イベントに計画的に参加できているだけでなく、ダンス部の手話パフォーマンス甲子園への出場等、新しいことへの挑戦もあった。  | ○地域のイベント・大会の目的や目標を確認しあい、計画的に取り組む。  |
| 4 教職員の専門性・授業力の向上  | 授業研究会の実施(○研究研修推進)                         | ○第2回琴の浦教育検証プロジェクトの結果より、企業が求める力として、昨年度より専門教科で取り組んでいる共通目標の指導の継続が必要であることがわかった。                                    | ○本校職員が専門教科で4つの共通目標について効果的な指導を行い、企業からの生徒の評価が向上する。<br>○9割の職員が授業を参観し、かつアンケートを提出する。 | ○共通目標を視点に掲げた専門教科の授業公開を行う。<br>○エキスパート教員による授業公開を行う。   | ○授業公開は10月11月に実施する。<br>○エキスパートの公開授業については10月に実施する。  | ○9月の中旬に職員に計画を提案する。   |
|                   | 教育検証プロジェクトのフィードバック(○研究研修推進)               | ○昨年度実施した教育検証プロジェクトより、①専門教科の4つの共通目標の継続指導、②コミュニケーション力の向上、③生徒の実態把握と適切な支援、④教職員の専門性及び指導力の向上の視点で取り組む必要性があることがわかった。   | ○分掌の各部が連携して取り組み、職員の指導力及び専門性の向上を図り、生徒に働く意欲を培う。                                   | ○共通目標に視点を当てた授業公開を実施する。<br>○自立活動の授業公開及びコミュニケーションに課題をあてた生徒への直接指導を実施する。<br>○客観的な生徒の実態把握を実施する。<br>○全職員での職員研修会を実施する。 | ○授業公開は10月11日に実施する。<br>○自立活動の個別指導は、必要に応じて3年生に対し随時実施している。指導後は必ず担任と情報交換を行っている。<br>○進路部と連携し、2年生を対象に実態把握を実施。<br>○夏季休業中にソーシャルスキルに関する研修、専門教科に関する研修を実施した。     | ○10月に授業公開を実施する。また、担任と共通理解を図り、個別指導の成果について分析する。<br>○進路部と学年部と連携しながら後期に1年生の実態把握を実施する。<br>○後期には職員自主研修会及びアドバイザー派遣事業研修を実施する予定である。 |
| 5 組織力向上           | 連携・協働による組織的指導、支援(○総務部)                    | ○生徒一人一人課題や環境は多様化し、効果的な支援や指導の在り方について、職員間の連携や協働が必要である。   | ○問題意識を高め、早期発見、早期対応、早期解決のための情報共有、連携ができていく。                                       | ○生徒情報システム等の各種データベースの積極的活用による迅速な報告、連絡、相談による情報の共有化を推進する。<br>○職員会議や朝礼等で報告、連絡、相談を行い、風通しの良い職場づくりに努める。                | ○生徒情報システム等の各種データベースの確認朝礼等での報告により、生徒の状況や支援について共有化が図れている。<br>○協働や連携において一部の教職員に負担が重なることがある。  | ○迅速な報告、連絡、相談に努め、課題の共有化を図ることを継続する。<br>○支援や指導の分担について調整を図る。   |
|                   | 教職員の対応力向上(○総務部)                           | ○様々な事案に対し、対応力の向上が必要である。また、県内での不祥事が絶えない現状がある。教職員一人一人が常に問題意識を持ち、継続して研鑽を積むことで対応力の向上を図ることが必要である。                   | ○学校全体の問題としての対応の仕方について共通理解を図ることができる。<br>○コンプライアンスの意識を高める。                        | ○対応力研修を実施する。<br>○終礼等でのコンプライアンス研修や掲示物での啓発を行う。<br>○琴の浦ルールブックの活用を推進する。   | ○対応力研修は実施したが、コンプライアンスについては掲示物や掲示板等での啓発にとどまっている。<br>○琴の浦ルールブックの内容について、実態が変わり変更が必要な部分がある。   | ○引き続き対応力研修を計画するとともに、終礼や職員会で、コンプライアンス研修を実施する。<br>○琴の浦ルールブックの見直しをする。   |

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し  
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]